

保育者養成系短期大学の「総合演習」における
環境教育の実施実態

井 上 美智子

“Integrated Studies” in Training Courses for Early Childhood Educators
in Junior Colleges in Japan : From the Viewpoint of Environmental Education

Michiko INOUE

近畿福祉大学紀要 第7巻 第2号
(平成18年12月)

保育者養成系短期大学の「総合演習」における 環境教育の実施実態

井 上 美智子

“ Integrated Studies ” in Training Courses for Early Childhood Educators
in Junior Colleges in Japan : From the Viewpoint of Environmental Education

Michiko INOUE

In 1998, a new subject known as “ Integrated Studies ” was introduced into the training curriculum as one of the compulsory subjects for obtaining a license as a kindergarten teacher. The research area of environmental education welcomed this addition, because the goal of this subject partly corresponds with that of environmental education. However, “ integrated studies ” included in the kindergarten teacher-training course in junior colleges is also a compulsory subject for acquiring the qualification of a nursery school teacher. Although the name of the subject is the same, the goal of “ integrated studies ” in the kindergarten teacher-training course differs from that in the nursery school teacher-training course; moreover, the latter does not require the inclusion of the contents on environmental education. In this light, I analyzed the syllabi gathered from 149 junior colleges (2-year courses) offering training courses for kindergarten teachers in 2002 with the aim of examining and revealing how the subject “ integrated studies ” provided environmental education. The results revealed that in the subject “ integrated studies, ” on the whole, 40% of the cases included content on environmental education, while the remaining 60% did not. Therefore, in junior colleges, “ integrated studies ” does not function as a subject that also covers environmental education, and the liberal arts subjects consequently assume a more important role in environmental education than in “ integrated studies. ”

Keywords: early childhood educators, environmental education, integrated studies, junior college

保育者、環境教育、総合演習、短期大学

1 . はじめに

井上・田尻(1999)¹⁾は、保育者(幼稚園教諭と保育士)養成系短期大学生の入学までの環境教育経験と環境問題や自然についての考え方の実態をもとに、幼

児期の環境教育を実践できる保育者を養成するための教育のあり方を提案した。そこでは、< 1 > 環境問題や自然を正しく理解し、幼児期からの環境教育の必要性を認識する、< 2 > 身近な生活のなかで環境保全や自然に積極的に関わる行動力を持つ、< 3 > 自然と触

受付 平成 18 年 9 月 28 日, 受理 平成 18 年 10 月 19 日
近畿福祉大学 〒 679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡 1966-5

れ合う遊びを中心とした幼児期の環境教育の保育実践力を持つ3つの目標をあげ、これらすべてに対応する3科目が養成期間内に連続して構成されることが望ましいとした。そして、その際に、現教育職員免許法に基づく「総合演習」はその設置目的から環境教育の内容を導入する科目とするのは不相当で、あくまでも前述の目標に対応する科目は「総合演習」とは別途開講で対応したいと提案した。ただし、保育者養成はその7割を短期大学が担うことから、免許や資格要件となる必要最小限の科目に絞り込んで開講せざるを得ない現実がある。したがって、その場合は $<1><2>$ の目標に対して同一科目で対応したり、環境教育の内容を「総合演習」に組み込むこともやむを得ないとした。

この総合演習は、1998年の教育職員免許法及び同規則の改正施行を受けて教員養成課程に新設された科目であり、「人権」、「地球環境」、「異文化理解」、「少子・高齢化と福祉」、「家庭の在り方」などのテーマについて分析検討し、指導方法と技術を修得する科目とされている。このように総合演習で取りあげることが想定されている内容には現代社会の様々な課題が含まれ、環境問題を取りあげたり、自然と関わるといような狭い意味での環境教育を実施する場とも成り得るし、持続可能性のための教育にもつながる意義のある科目である。

しかしながら、保育者養成の教育課程における総合演習は教員養成における総合演習と同一のものとして扱うわけにはいかない。なぜなら、幼稚園教諭養成は保育士養成と併せて実施されることが多く、保育士養成課程の総合演習としても扱われることが予想されるからである。教員養成課程における総合演習については導入以降、教育系四年制大学を中心に報告がなされるようになってきているが(たとえば、半田、2002²⁾;野本他、2002³⁾;加藤、2004⁴⁾;三野、2004⁵⁾;高桑他、2004⁶⁾)、実践報告に留まっている段階である。実践の結果、教職への意識の形成に寄与していることが報告される一方で(杵淵、2003⁷⁾)、目的を達成するためには履修者数の調整やティーチングアシスタントが必要であること(川田、2004⁸⁾)や教員間の共通理解の必要性(伏木、2004⁹⁾;宮崎、2004¹⁰⁾)、予算や施設面での改善(真如、2003¹¹⁾)など実施上の課題もあげられている。しかし、これらの報告は「総合演習」の評価を求めてなされており、環境教育という観点ではとらえられていない。また、保育者養成校での総合演習の実践報告もいくつかあり(たとえば、籾・佐伯、2001¹²⁾;新山・関崎、2003¹³⁾)、環境教育的内容を含む事例も報告されている

(たとえば、原田、2004¹⁴⁾)。しかし、養成校全体にわたる調査や教員養成課程と保育士養成課程における総合演習の意義の違いについて言及したものは見あたらない。そこで、本稿では、まず、幼稚園教諭養成課程の総合演習と保育士養成課程の総合演習の設置の経緯をpushした上で、短期の保育者養成課程における総合演習のシラバス分析を進めてその実施実態を明らかにし、保育者養成における総合演習が今後、環境教育の場として成立する可能性について検討する。

2. 保育者養成課程における総合演習設置の経緯

幼稚園教諭養成の総合演習は、「人間尊重・人権尊重」はもとより、地球環境、異文化理解など人類に共通するテーマや少子・高齢化と福祉、家庭の在り方などが国の社会全体に関わるテーマについて、教員を志願する者の理解を深めその視野を広げるとともに、これら諸課題に係る内容に関し適切に指導すること(教育職員養成審議会第1次答申、1997)を目的として設置された。これは、幼稚園から高等学校に至る学校教育機関の教育職員を養成する課程のすべてに義務づけられたものである。したがって、幼稚園教諭養成の総合演習は学校教育機関の教員養成に必須のものとして設置された科目である。そして、同時期に小学校から高等学校の教育課程に「総合的な学習の時間」が導入されたことと無関係ではない。

一方、保育士養成においては、保育士養成課程に関する児童福祉法施行規則が教育職員免許法改正(1998)より3年遅れて2001年に改正された。その際、保育士養成における総合演習は、幼稚園教諭2種免許との整合性を図ることを意識しながら設置されている。これは、多くの保育士養成課程で幼稚園教諭養成が同時に行われている現実に沿ったものである。したがって、教員養成課程の総合演習の設置目的をある程度は踏まえながら、保育士養成にも通用するものとして設置されたと考えてよい。この改訂の基礎となった保育士養成課程等検討委員会報告(2001)では、教授すべき標準的事項として教科目の教授内容が示された。そこでは、保育士養成における総合演習の目的として、(1)保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させる、(2)保育に関する現代的課題について、問題等の現状分析・検討を行わせる、(3)問題解決のための対応、判断方法について検討させるの3点があげられている。そして、具体的な課題例としてあげられているのが、「少子化への対応」、「虐待およびそれに伴う世代間連鎖について」、「長時間保育と子どもの発達について」、「少子高齢化と

世代間交流」の4課題であった。すなわち、保育士養成における総合演習は、保育とそれに関わる現代的課題に焦点が当てられている。そして、それは教員養成における総合演習の目的としてあげられた前半部分の「人間尊重・人権尊重はもとより、地球環境、異文化理解など人類に共通するテーマ」よりは、後半部分の「少子・高齢化と福祉、家庭の在り方など我が国の社会全体に関わるテーマ」に合致した課題だといえる。

以上のことから、保育者養成課程における総合演習は幼稚園教諭免許と保育士資格の双方の設置目的に一致させる必要があり、理想的にはそれぞれの目的に一致した科目を別途に開講すべきであるが、短期の養成課程では同一科目で対応するのが現実的であろう。結果として、幼稚園教諭養成と保育士養成を併せ持つ短期の保育者養成課程における総合演習は、教員養成のための総合演習として検討することはできず、保育士養成における総合演習にあわせたものとならざるを得ないのが制度上の前提となる。とすると、この総合演習は、保育者志望者に対する環境教育の場、あるいは、幼児期の環境教育を実践できる保育者を教育する場としては機能できないと予想できる。次節では、現実の保育者養成系短期大学の総合演習の実施実態をみることにする。

3. 保育者養成系短期大学のシラバス分析

(1) 方法

全国の保育・幼児・児童・初等を冠する学科をもつ保育者養成系短期大学202校を対象とした。2002年4月に、各短期大学教務担当部長宛に依頼文書を送付し、学生便覧とシラバスの送付を依頼した。両方の送付協力をいただいた有効回収校は149校(回収率73.8%)であった。回答校の学科・取得免許や資格は井上(2005)¹⁵⁾に示した。

シラバスにおいて、総合演習に関する科目の記載が読み取れた回答校は149校中134校であった。まず、必修・選択の違い、担当者数など開講形態を分析した。次に、井上・田尻(1999)¹⁾で示したような環境教育的内容や自然と関わる保育指導力を養成する内容の有無をみた。具体的には、自然体験型環境教育につながるものとして「自然との関わり」や「自然の実体験」を示す語句があるかどうか、環境問題などに焦点を当てた環境教育につながるものとして「環境・地球環境」を示す語句があるかどうか、広い意味での環境教育につながるものとして「地球市民・人類共通の課題・現代的課題」を示す語句があるかどうか、総合演習で取りあげた主題が保育実践へとつながられているかどうか

をみるための「保育の指導法」を示す語句があるかどうかという5つの観点から、それらを示す語句の有無を調べた。

(2) 結果

【開講形態】

134校の回答校において、141科目の総合演習に相当する科目を見つけることができた。総合演習の開講科目数は1科目だけという養成校が129校(96.3%)、2科目開講校が4校(3.0%)、4科目開講校が1校(0.7%)であった。

幼稚園教諭養成課程の総合演習と保育士養成課程の総合演習を同一科目で対応していた養成校が130校(97.0%)、別科目で対応していたのが4校(3.0%)であった。必修選択については、卒業必修の記載があったのは141科目中64科目(45.4%)、幼稚園教諭免許必修の記載があったのが135科目(95.7%)、保育士資格必修の記載があったのが121科目(85.8%)であった。

総合演習は、担当者の関与の仕方や学生側からみた受講形態が様々であった。まず、担当者だが、最も多かったのが複数の教員で担当している形式で141科目中93科目(66.0%)、次いで、一部は単独で担当しているが残りは複数の教員で担当している形式の37科目(26.2%)であった(図1)。そして、学生の立場からは、グループ別で受講する形式を取っている科目が141科

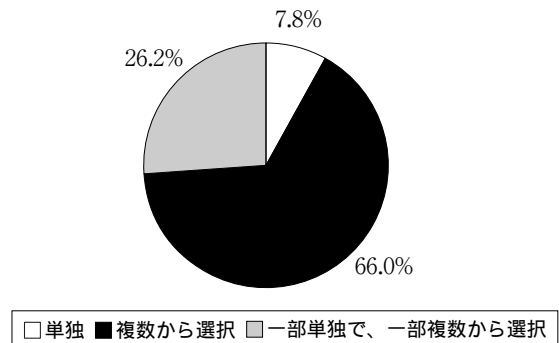


図1 授業担当者

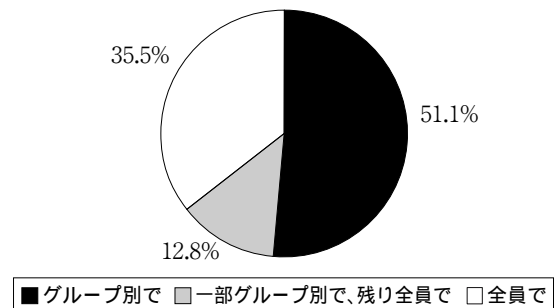


図2 学生の受講形態

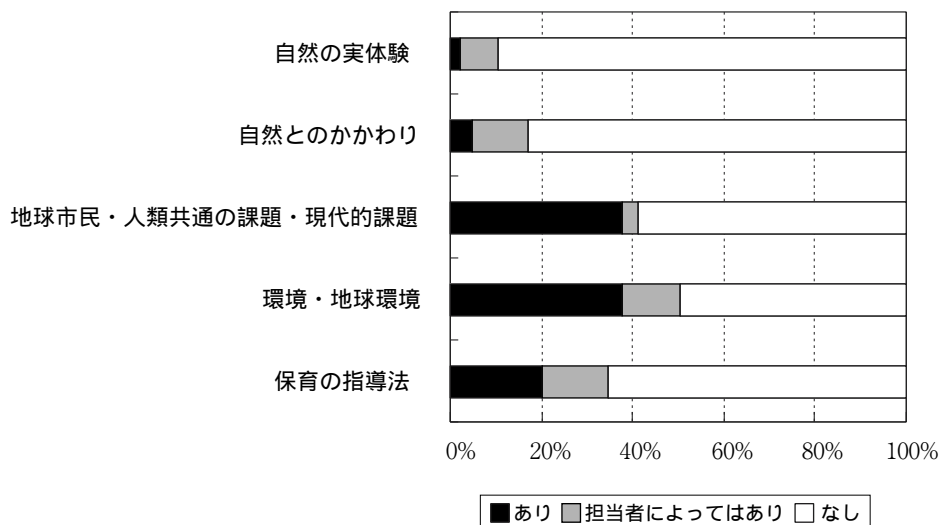


図3 総合演習の内容

目中72科目(51.1%)と半数を占め、次いで、全員が一緒に受講する形式であったのが50科目(35.5%)であった(図2)。残る18科目(12.8%)は、一部は全員で受講するが残りはグループに分かれて受講する形式であった。

【内 容】

5つの観点からみた語句の有無を図3に示した。自然の実体験を示した語句は2.1%、自然との関わりを示した語句は5.0%と、わずかの科目にしかみあたらず、「担当者によってはある」という科目を合わせてもそれぞれ10.6%、17.0%と1~2割程度でしかなかった。地球市民・人類共通の課題・現代的課題という総合演習の設置目的に一致するような語句および環境・地球環境というような環境に焦点を絞った語句は、37.6%と4割近い科目に見られ、「担当者によってはある」という科目を合わせると、それぞれ41.1%、50.4%となった。保育の指導法として具体的な指導に結びつくような模擬授業や指導法の検討などの語句を含む科目は20.0%、「担当者によってはある」を合わせると34.0%であった。

(3) 考 察

結果をまとめると、97%の回答校では幼稚園教諭養成課程の総合演習と保育士養成課程の総合演習を同一科目で対応していた。保育者養成系短期大学の9割が幼稚園教諭養成と保育士養成を同時に行っているため(井上、2005)¹⁵⁾、2年間という短期養成校では免許・資格関連科目を中心に必要最小限の教育を効率よく行うことが求められている。したがって、教員養成科目

としての総合演習と保育士養成科目としての総合演習を同一科目で対応しているのはやむを得ない実態であろう。

また、総合演習のほとんどが免許や資格必修であったが、7割近くが複数の教員で対応し、学生の立場からみても5割がグループに分かれて受講する形式であるなど、担当者の関与の仕方や学生側からみた受講形態が養成校により様々であった。また、内容についても、幼稚園教諭養成を意識したものと保育士養成を意識したものがあり、養成校によって多様であった。開講形態や取りあげている内容が多様であることは、総合演習の導入開始後すぐの調査であったため、総合演習の設置目的についての理解が養成校により異なっていたり、個々の実態にあわせた現実的な対応が取られた結果だと考えられる。

4. 保育者養成課程の総合演習と環境教育

以上の実態から考えて、保育者養成課程の総合演習は環境教育の場になり得るのだろうか。井上(2005)¹⁵⁾によれば、短期の保育者養成における環境教育は一般教育科目がその実践の場となっているようであった。しかし、本稿の結果では4割程度の総合演習のシラバスで「地球市民・人類共通の課題・現代的課題」や「環境・地球環境」等の環境に焦点を絞った語句が見られた。すなわち、養成校によっては総合演習も環境教育の場として機能している実態があった。一方で、残る6割の総合演習では環境教育的なニュアンスがシラバス上読み取れなかったわけであり、保育者養成課程に

における総合演習が保育者志望者に対する環境教育の場、あるいは、幼児期の環境教育を実践できる保育者を教育する場としては機能できないという制度上の前提に一致している。

これらの結果をどう読みとるべきであろうか。総合演習は教員養成課程の設置目的からすれば環境教育の場となり得るし、4割の総合演習ではそれに合致した実態であった。とすると、今後も総合演習において環境教育的内容の導入を求めるべきなのだろうか。あるいは、短期養成の場合は同一科目での対応が前提で保育士養成の設置目的に合わせる事が現実的であるから総合演習には期待できないのだろうか。これについては、調査時点において総合演習がまだ導入期であり、その本来の設置目的が十分に反映されていないという点を考慮しなければならない。

たとえば、保育士養成課程の変更を前に平成13年度に全国保育士養成協議会が実施した保育士養成セミナーの分科会で総合演習のあり方が議論された。ここでは、総合演習の導入以前から「特別研究」や「卒業研究」の名称で実施されてきた内容を総合演習にあてるのがよいとの提案もなされていた。本調査の結果でも、複数の教員で担当する総合演習が66%、学生がグループ別に別れて受講するのが51%と、約半数の総合演習が指導担当教員ごとに分かれて受講する卒業研究のようなゼミナール形式で行われていることがわかった。しかし、総合演習の本来の設定意図から考えると、卒業研究として実施されてきた科目をそのまま当てることは不相当であろう。教員ごとに課題をあげて学生がそれを選択するという方式を採用している養成校の授業計画を見ると、各教員が現代的な課題をそれぞれの専門領域の中で意識して提示している場合もあるが、単に一般教養や保育の基礎技能を高めることが目的ではないかと思われる内容も提示されていた。中央教育審議会初等中等教育分科会の教員養成部会が平成15年度に行った教員免許課程認定大学実地視察報告でも、総合演習について「テーマ設定や演習内容が特定分野に集中し、広がりが見られないところなど、科目の設置趣旨と必ずしも合致しないテーマ設定について指摘を行った大学」があったとされている。この報告は教員養成に限定したもののだが、本調査の結果とあわせてみても、養成校では総合演習の設置目的が十分に周知されていたわけではないようである。つまり、養成校における総合演習は、改善の余地がある段階にあり、その本来の設置目的に合致する内容が今後意識されていけば、保育士養成の総合演習へと収斂していくことが予想される。また、近年の学力低下論争の流れ

を受け、教員養成における総合演習の位置づけが今後変容することもあり得る。これらのことから、今後も総合演習が環境教育の場となることは難しいと考えるべきであろう。

以上のように、保育者養成における総合演習は、制度上も実態からも今後環境教育の場となることは困難であると考えられた。井上(2005)¹⁵⁾では一般教育科目で実施されている環境教育の実態を報告したが、今回の結果からも一般教育科目の一層の充実が重要だといえよう。しかし、保育士養成においては2001年の改正で総合演習や家族援助論などの新設科目による単位数増加と総単位数への配慮などから、一般教育科目にあたる教養科目群の設置単位数と履修単位数が2単位分減少になっている。養成校の創意工夫に任せられたとはいうものの、短期養成校では豊かな教養科目の開講は難しい現実がある。井上(2005)¹⁵⁾でも指摘したが、環境教育を実践できる保育者養成は短期養成では限界があり、より専門性の高い保育者養成の課題として、四年制課程での養成をめざすべきなのかもしれない。今後は、専門科目を中心に分析を進め、〈3〉自然と触れ合う遊びを中心とした幼児期の環境教育の保育実践力を持つという目標に応じた養成教育がなされているかどうかの実態を明らかにする予定である。

謝 辞

調査にあたり、貴重な資料を提供していただきました全国の保育者養成系短期大学に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 井上美智子・田尻由美子：環境教育を実践できる保育者養成のあり方について．環境教育、9-1、2-14、1999
- 2) 半田博：総合演習の実践と問題点 神戸女子短期大学論攷、47、2002、135-149
- 3) 野本立人、保坂博光、高見仁志：教員養成大学における「総合演習」の試み 兵庫教育大学紀要、22、101-117、2002
- 4) 加藤浩文：家政学科における総合演習の題材としての地球環境問題 家庭科教育、78-2、61-65、2004
- 5) 三野たまき：系紡ぎから何が得られたか - 総合演習における一授業実践 - 教育実践研究(信州大学教育学部附属教育実践総合センター)、5、81-90、2004
- 6) 高桑進、宮野純次、近藤祥夫、表真美、安藤詔一：大学における「総合演習」の展開 京都女子大学教育学科紀要、44、47-85、2004

- 7) 杵淵信：教員養成教育における総合演習の取り組みと評価 北海道教育大学教育実践総合センター研究紀要、4、43-49、2003
- 8) 川田力：専門科目「総合演習B」の実践と学生による授業評価 岡山大学教育学部研究集録、125、135-144、2004
- 9) 伏木久始：教員養成カリキュラムにおける「総合演習」の教育方法上の課題 信州大学教育学部紀要、112、193-201、2004
- 10) 宮崎孝史：総合演習に関する一考察 その1 京都文教短期大学研究紀要、43、20-30、2004
- 11) 真如紀子：大学における「総合演習」の展開に関する考察 日本体育大学紀要、32-2、197-207、2003
- 12) 籠光夫、佐伯一弥：フィールドワークを通じた保育課題の発見 千葉明德短期大学研究紀要、22、75-85、2001
- 13) 新山順子、関崎哲：保育学生の自ら学ぶ力を育成する体験的授業の可能性 岡山県立大学短期大学部研究紀要、10、123-137、2003
- 14) 原田節治：総合演習の一考察 大阪成蹊短期大学研究紀要 1、119-133、2004
- 15) 井上美智子：保育者養成系短期大学の一般教育科目における環境教育の実施実態 近畿福祉大学紀要、6-2、73-78、2005
- 付) 本研究は文部科学省科学研究費補助金(課題番号12680192)により実施したものである。